

研究課題名	微小変化型ネフローゼ症候群（MCNS）患者の初回再発に関わる臨床学的および腎組織学的因子の検討-既存試料（腎病理）を用いた後方視的観察研究-
研究の意義・目的	微小変化型ネフローゼ症候群(MCNS)では、免疫抑制療法によって90%以上が寛解するとされていますが、高頻度に再発してしまいます。 私たちはこれまでの臨床経験から、「経過中に急性腎障害を合併すること」、「健常時からMCNS発症時までの体重増加が多いこと」、そして「腎組織の障害が重度であること」が再発に関わる要因であると感じております。 MCNSの方の再発に関わる因子を検討することは、将来のMCNS診療の一助となる可能性が高く、大阪公立大学医学部附属病院（旧大阪市立大学医学部附属病院）で腎生検を受けられ、MCNSと診断された方にご協力を頂きたいと考えました。
研究を行う期間	研究機関の長の研究実施許可日～ 2028年3月31日
研究協力を お願いしたい方 (対象者)	2007年5月1日～2022年3月31日に大阪公立大学医学部附属病院（旧大阪市立大学医学部附属病院）腎臓内科にてネフローゼ症候群の精査・加療目的で入院され、腎生検にてMCNSと診断された方が対象です。
協力をお願いしたい 内容と研究に使わせ ていただく試料・情 報等の項目	診療の過程で得られた下記項目を本研究に使用させてください。 試料：腎生検組織。保存している腎病理組織を再検討いたします。 診療情報：以下を診療録より調べます。 ①基本情報：年齢、性別、身長、体重、血圧、既往歴、治療歴、喫煙歴、飲酒状況 健常時の体重は不明であったり、記録が残っていないことが予想されます。そこで、退院時の体重が本来の健常時の体重であるとみなし、今回は体重増加率を{(入院時体重-退院時体重)/退院時体重}×100(%)として算出いたします。 ②腎生検時の血液検査：血算、CRP、eGFR、Cr、BUN、TP、Alb、UA、TG、TC、LDL-C ③腎生検時の尿検査（随時尿）：蛋白、Cr、Na、K、Cl、Ca、P、NAG、β2-MG ④治療内容（免疫抑制薬使用の有無とその種類・血液透析の有無） ⑤合併症：急性腎障害の合併の有無
試料・情報を利用す る者の範囲	この研究は大阪公立大学医学部附属病院腎臓内科のみで行います。
試料・情報の管理に ついて責任を有する 者の研究機関の名称	公立大学法人大阪、大阪公立大学医学部附属病院
本研究の 利益相反	利益相反の状況については研究者等が利益相反マネジメント委員会に報告し、その指示を受けて適切に管理します。 本研究は、公益財団法人 大阪コミュニティ財団からの助成金を研究資金として実施します。
研究に協力を したくない場合	下記に連絡することでいつでも本研究への協力を拒否することができます。また、研究への協力を断っても、診療に関する不利益等を受けることはありません。
連絡先	お問合せ先：大阪公立大学医学部附属病院腎臓内科 担当者氏名：仲谷 慎也 電話番号：06-6645-2312 メールアドレス：nakatani-s@omu.ac.jp